

小項目 No. 10 国際文化交流への理解及び参画の促進と支援

大項目	I. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため取るべき措置
中項目	2. 分野別事業方針等による事業の実施 (6) 国際文化交流への理解及び参画の促進と支援
小項目	No. 10 効果的な情報の提供や顕彰の実施による、基金事業を含めた国際文化交流への内外の理解の促進
中期計画	<p>国内外各層の国際文化交流への理解及び参画の促進と支援のため、以下を行う。</p> <p>ア 内外の国際交流関係者に対して、顕彰や情報提供等の支援を行うことにより、国際文化交流への理解を促す。</p> <p>イ 国際文化交流活動の意義と重要性を提示し、国際文化交流活動の理解者を得るとともに、担い手としての民間セクターの参画を促進すべく、基金本部及び海外事務所の図書館ネットワーク、ウェブサイトや SNS、印刷物等の各種媒体を通じて、基金事業に関する情報を効果的かつ効率的に提供する。</p> <p>基金本部に設置されている図書館については、経費の増大を招かない形で、レファレンス対応の強化等により、利用者数の増加、効果的な運営及び利用者の利便性向上に引き続き取り組む。</p> <p>国際交流基金ウェブサイトについては年間アクセス件数が第 2 期中期目標期間の平均値を超えることを目標として内容を充実させる。</p>
年度計画	<p>国内外各層の国際文化交流への理解及び参画の促進と支援のため、平成 25 年度においては以下のように事業を行う。</p> <p>ア 国内のさまざまな国際交流関連団体及び人物とのネットワークの形成と強化を図るため、国際文化交流全般及び基金事業に関する情報を提供し、国際文化交流及び基金事業に対する理解を求めらる。</p> <p>イ 基金本部に設置されている図書館については、図書館のリソースを活用した展示その他のイベントを実施し、効果的かつ効率的に情報提供を行い、基金事業への理解と関心を高めるとともに、利用者数の増加を図る。</p> <p>ウ 国際文化交流に貢献のあった国内外の個人・団体に対する顕彰を行い、これを効果的に広報することにより国際文化交流及び基金への理解と関心を得るように努める。また、国内の地域に根ざした優れた国際交流を行っている団体を顕彰し、効果的な広報を行う。</p> <p>エ インターネットを通じた広報を更に強化する。基金ウェブサイトについては、情報アクセスビリティの確保・向上を含むリニューアルの検討と準備を行う。若い世代を中</p>

	<p>心としたネットユーザーに対しては、Twitter や Facebook 等のソーシャルメディアへの取り組みを強化する。また、インターネットを通じた英語による発信の強化を図る。基金ウェブサイトの訪問者数については、年間アクセス件数が第 2 期中期目標期間の平均値を超えることを目標とする。また、ウェブマガジン「をちこち Magazine」については、年間の訪問者数の目標値を 9 万件とする。</p> <p>オ 基金の活動と成果を広く発信し、国際文化交流の意義と基金の事業に対する一般の理解を促進する活動を行う。</p>
--	--

【業務実績】

指標 1：効果的な顕彰事業の実施

1. 国際交流基金賞

学術・芸術その他の文化活動を通じて、国際相互理解の増進や国際友好親善の促進に長年にわたり特に顕著な貢献があり、引き続き活動が期待される個人または団体を顕彰している。

平成 25 年度の授賞式には、国会議員 15 名、各国大使館関係者 26 名を含む 298 名が出席し、国内外の社会的影響力が高い方々に国際文化交流の意義を再認識してもらう機会となった。

平成 25 年度の受賞者・団体は次のとおり（敬称略）。

入江昭（ハーバード大学名誉教授）（日本）

山海塾（日本）

泰日経済技術振興協会（タイ）

報道件数は次のとおりであった。

新聞報道 26 件

報道機関ウェブサイト等への掲載 8 件

書籍・雑誌 3 件

ラジオ放送 1 件

また授賞式開催の機会をとらえ、受賞者（代表者）による記念講演会を次の通り開催した。

■入江昭氏（ハーバード大学名誉教授）講演「アジア太平洋共同体の可能性」

日時：10 月 28 日

会場：公益財団法人 国際文化会館岩崎小彌太記念ホール

主催：国際交流基金

共催：公益財団法人 国際文化会館

■山海塾 対談「日本の舞踊から」（主宰 天児牛大×演劇評論家 渡辺保）

日時：11 月 6 日

会場：国際交流基金 J F I C ホールさくら

主催：国際交流基金

■泰日経済技術振興協会 スッチャリット・クーンタナクンウォン会長

講演「泰日経済技術振興協会（TPA）の40周年：日本からタイへ、そしてアセアン共同体に向かって」

日時：10月11日

会場：国際交流基金 J F I C ホールさくら

主催：国際交流基金

協力：一般社団法人日タイ経済協力協会

また、当該年度以外の受賞団体に関するイベントとして、2011年の基金賞受賞団体タンブッコの来日の機会を捉え、以下の講演会を開催した。

「日本とメキシコをつなぐ～ タンブッコと日本の新進作曲家たちの挑戦」

日時：7月5日

会場：国際交流基金 J F I C ホールさくら

主催：国際交流基金

2. 地球市民賞

日本国内の地域を拠点に、国際文化交流活動を通じて、海外と日本の市民同士の結びつきや連携を深め、相互の社会が抱える共通の課題の解決を目指し、互いの知恵やアイデア、情報を交換し、共に考える団体を顕彰している。

平成25年度の受賞団体は次のとおりであった。

特定非営利活動法人 BankART 1929（神奈川県）

特定非営利活動法人 雪合戦インターナショナル（北海道）

特定非営利活動法人 多言語社会リソースかながわ（M I Cかながわ）（神奈川県）

報道においては、受賞団体所在地を中心に、新聞報道がなされ、各団体の活動内容についても紹介された。報道件数は次のとおり。

新聞記事 9件

雑誌記事 3件

報道機関ウェブサイト等への掲載 13件

テレビ放送 2件

インターネットやソーシャルメディアの普及などで、国際文化交流のあり方が多様化してきており、地域に限定されない活動が増えている動向を受けて、今年度は活動分野を「文化・芸術による地域づくり」、「多様な文化の共生」、「市民連携・国際相互理解」と明確にし、また従来のおも機関による推薦

以外に自薦を可能としたところ、前回の 79 件を大きく上回る 136 件（自薦 43 件、他薦 93 件）の応募があった。

指標 2：基金事業に関する情報の内外への効果的かつ効率的な提供

以下により、基金の活動と事業の成果を発信し、国際文化交流の意義と基金の事業に対する一般の理解促進に努めた。

1. インターネットを通じた情報提供

インターネットを通じた情報の発信については、スマートフォンの普及やソーシャルネットワークサービスの普及とともに、ユーザーがホームページに能動的にアクセスするのではなく、事前に登録したページや友人から届けられる情報を受動的に受け取る形態が主流になりつつあるが、こうした状況に対応するため、Facebook 及び Twitter の公式アカウントの運用に重点をおいた。平成 24 年にスタートした Facebook については、年度当初のフォロワー 5,803 人から 32,601 人（562%増）、ツイッターについては同 8,730 人から 12,812 人（147%増）になるなど大幅な増加が見られた。

基金ウェブサイト（www.jpfi.go.jp）については、情報更新及び英語での情報発信の増加に努めた結果、アクセス件数は約 499 万件となり、前年度の約 450 万件を上回ったが、上記のとおりソーシャルネットワーク経由で流れてくる情報の閲覧が主流になるなか、第 2 期中期目標期間の平均値を超えることができなかった。

また、ウェブサイトについては、総務省ガイドラインに沿ったアクセシビリティ基準達成のために、平成 26 年度末までに等級 AA に一部準拠することを目指し、ウェブサイトのコンテンツやインターフェースの見直しを含む改訂業務に平成 24 年度より着手している。平成 25 年度は日本語版トップページの先行改訂を行い、2014 年 3 月にリニューアルしたホームページを公開した。

メールマガジンには、2014 年 3 月末時点で、和・英それぞれ 11,097 件、7,014 件の登録があり、年間を通じて情報提供を行った。会員数は前年度と比べほぼ横ばいだが、日本語版の登録者が増え、Facebook による情報発信を強化している英語版の登録者には減少が見られた。

ウェブマガジン「をちこち Magazine」については、メールマガジンなど他の基金運営媒体による情報拡散を行なうなど、幅広い読者層に訴求するべく努めた。年間の訪問者数は約 15 万件となり、年度当初の目標値である 9 万件を大きく上回った。

ブログについては、ソーシャルネットワークサービスの運用に優先度を置いたため、投稿数は 20 回と前年の 26 回を下回ったが、ページ基盤を、「はてな」から Google 検索との親和性が高い「Google Blogger」に移行したことにより、アクセス数が前年の 3 万 5 千件から、約 6 万件となった。

平成 25 年度「をちこち Magazine」特集テーマ

4 月号	被災地の経験と復興への歩みを世界に届ける
5 月号	新たに語られる戦後日本美術～東京・ソウル・NY
6 月号	海外へ売り出せ！日本の文学
7 月号	希望、夢、そして愛：闘うアーティストたち

8月号	全解剖 田中功起@ヴェネチア・ビエンナーレ
9月号	先端を走れ！メディア・トークと日本のケンチク
11月号	世界をつなぐ、次世代へつなげる～第41回国際交流基金賞
12月号	コミュニケーションは日本語で
1月号	世界との出会いで進化する日本の伝統芸能
2月号	ASEANと日本のアーティストが創り上げた舞台
3月号	震災で生まれた交流の芽を育てる

2. マスメディアを通じた情報提供

基金事業等に関する情報の、効果的かつ効率的なマスメディアへの提供に努めた。プレスリリースについては、下半期から案件を絞込みメディアへのフォローアップを強化した結果、リリースの発行件数は前年の157件から127件へ減少したが、新聞報道は平成24年度の444件から517件となり、効果的な広報を行うことができた。その他、記者懇談会も10回開催した。

3. その他

国際交流基金の活動を分かりやすくまとめて提供するため、年報を作成し、公表・配布した他、年報の記載を元に、広報用の簡潔なスライドショーを作成した。

指標3：基金事業への国民からの積極的な参画・支援を促す国内認知度の向上

中学・高校生によるグループ訪問、大学ゼミ生の訪問受入を計12グループ208名受け入れたほか、神奈川県立七里ガ浜高校からの依頼を受け、職員が出講し基金事業や国際交流活動の紹介を行った。また、2日間で1,684名（うち小学生が約700名）が来訪した霞ヶ関子供デーへのブース参加を通して、国民に対する国際交流活動の紹介に努めた。

イベントスペースJFICホールさくらにおいて、事業説明会、記者発表、オリエンテーション等を81回（平成24年度39回）開催した。

指標4：本部に設置されている図書館の効果的な運営と利用者数の増加

本部JFICライブラリーの運営にあたっては、所蔵資料をさまざまな形で広報し、利用促進に努めた。ライブラリー独自のFacebookを立ち上げ、新着資料やイベントの広報を日英2か国語で行った。日本以外からは東南アジアからの閲覧が多い。また貴重本の展示を継続的に行うとともに、日本の伝統的なおもちゃを紹介する「日本のおもちゃ」展をテーマ展示として開催した。また、デジタル化された国際交流基金年報等の報告書を館内で利用できるようにした。

さらに国立国会図書館のデジタル化資料送信サービスに参加し、これまで同図書館内でしか閲覧できなかった著作権が切れた古い資料を、ライブラリー内端末で閲覧できるようになり、利便性の高さを評価されている。

レファレンスサービスについては、中東放送局「アルジャジーラ」からの照会も含め、668件に対応

した。入館者数は 21,255 人（平成 24 年度 20,769 人）、利用登録者数は 348 人（平成 24 年度 327 人）、図書貸出数は 3,385 点（平成 24 年度 3,284 冊）となり、前年度を上回った。

基金の海外拠点の図書館に助言を行うとともに、国内の日本語国際センター、関西国際センターの図書館とも連携を行い、国内 3 館の図書館会議を開催した。ライブラリーの見学を希望する関係機関や大学生等へのオリエンテーションも随時実施した。

外部専門家による評価

1. 評価結果

本項目に関する外部専門家 2 名による評価結果は以下の通り。

ロ	ハ
---	---

2. 外部専門家の評定理由（イ評価及びニ評価以下について）

該当なし。

実施したプログラムの概要

No. 10-別添1

プログラム	概要及び事業例
国際交流基金賞	<p>国際文化交流活動を通じ、日本と海外の相互理解促進に長年にわたって顕著な貢献のあった個人・団体に対し、「国際交流基金賞」を授与し、その功績を顕彰する。また、これを内外に広く周知することにより、国際文化交流の更なる発展を促す。</p> <p>【平成25年度受賞者・受賞団体】 入江昭・ハーバード大学名誉教授(日本) 山海塾(日本) 泰日経済技術振興協会(タイ)</p>
国際交流基金地球市民賞	<p>全国各地で国際文化交流事業を通じて、日本と海外の市民同士の結びつきや連携を深め、互いの知恵やアイデア、情報を交換し、ともに考える団体を支援する。</p> <p>【平成25年度受賞団体】 (特活)BankART1929 (神奈川県横浜市) (特活)雪合戦インターナショナル(北海道壮瞥町) (特活)多言語社会リソースかながわ(神奈川県横浜市)</p>
JFIC事業	<p>国際文化交流、基金の活動、日本文化等についての情報を収集し、広く提供することにより、一般の人々の国際交流についての理解を促し、国内外の国際交流の担い手を支援する。</p> <p>【事業例】 JFICライブラリー運営 JFICイベント実施(「相撲取りになる夢をかなえたエジプト人力士～大砂嵐 特別講演会」、「日本とメキシコをつなぐ～タンブッコと日本の新進作曲家たちの挑戦」、「ポンボ・イン・ジャパン展」他) 大学生・高校生等グループの受入れ</p>
ウェブサイト・メールマガジン等	<p>ウェブサイトを通じて、基金とその事業を紹介するとともに、国際交流に資する各種情報提供を行なう。また、国内各地で行われているアーティスト・イン・レジデンスをまとめたウェブサイト「AIR_J」(アーティスト・イン・レジデンス・ジャパン 和文・英文)を公開し、内外の最新情報を更新することにより、国内外の国際交流活動の担い手を支援する。このほか、和文・英文のメールマガジン、ブログやソーシャルメディアを通じて情報提供を行なう。</p> <p>【事業例】 http://www.jpf.go.jp/ http://air-j.info/ メールマガジン(日英) ブログ「地球を開けよう」 Twitter Facebook</p>

実施したプログラムの概要

No. 10－別添1

プログラム	概要及び事業例
年次報告	<p>組織広報の基礎的リソースとなる資料を整備し、効果的に活用する。</p> <p>【事業例】 「国際交流基金年報2012年度版」(和文)および「The Japan Foundation Annual Report 2012/2013」(英文) いずれも印刷媒体、ウェブページ、スライドショーDVDの3種 「国際交流基金事業実績」(和文、CD-Rom)</p>
広報	<p>基金の活動や国際文化交流に関する情報を、印刷物やインターネットなどのメディアやセミナー等の開催により提供することによって、一般の人々の国際交流についての理解を促し、内外の国際交流の担い手を支援する。</p> <p>【事業例】 をちこちMagazine 各種報道資料(プレスリリース) 組織広報パンフレット</p>

プログラム単位の実績数値

No. 10-別添2

プログラム	事業費	実施状況	アンケート結果	報道件数 〔前年度〕
	予算投入額 〔前年度〕 ※暫定値	来場者・アクセス・発行部数 〔前年度〕	参加者満足度 〔前年度〕	
国際交流顕彰事業(基金賞)	25,023,836円 〔26,710,864円〕	4件 〔3件〕		38件 〔197件以上〕
国際交流基金賞受賞記念講演会	3,006,552円 〔1,370,917円〕	288人 〔226人〕	84% 〔97%〕	
国際交流顕彰事業(地球市民賞)	13,181,106円 〔14,897,641円〕	3件 〔3件〕		27件 〔24件〕
JFIC事業				
JFICライブラリー	21,253,815円 〔24,687,886円〕	来館者 21,255人 〔20,769人〕 貸出冊 3,385件 〔3,284件〕 レファレンス 668件 〔800件〕	98% 〔99%〕	
JFICイベント	654,636円 〔1,063,924円〕	356人/4件 〔460人/4件〕	92% 〔92%〕	
JFICホールさくら		利用率 70% 〔64%〕 イベント件数* 81件 〔39件〕	* 部外者を含む公開イベント、事業の一環の会合、募集説明会等(各種会議・委員会等を除く)	
広報・情報提供				
ウェブサイト	14,861,574円 〔15,505,274円〕	アクセス 5,451,329件 〔4,882,626件〕 訪問者 1,231,771件 〔1,064,750件〕		
うちをちこちマガジン	9,386,264円 〔9,241,784円〕	アクセス 268,411件 〔191,027件〕 訪問者 149,788件 〔94,696件〕		
メールマガジン	1,412,800円 〔1,995,000円〕	配信 18,111件 〔18,350件〕		
ブログ	0円 〔252,000円〕	アクセス 60,329件 (20配信) 〔35,190件 (25配信)〕		
SNSサイト	673,094円 〔1,385,430円〕	ツイッター・フォロアー 12,812人 〔8,730人〕 フェイスブック・フォロアー 32,601人 〔5,803人〕		
メディア報道	1,369,299円 〔1,256,829円〕	プレスリリース 127件 〔157件〕 記者懇談会 10件 〔6件〕		国内主要報道件数 新聞 517件 〔444件〕 テレビ 91件 〔106件〕

プログラム単位の実績数値

No. 10－別添2

プログラム	事業費	実施状況	アンケート結果	報道件数 〔前年度〕
	予算投入額 〔前年度〕 ※暫定値	来場者・アクセス・発行部数 〔前年度〕	参加者満足度 〔前年度〕	
年次報告	5,338,305円 〔6,652,830円〕	印刷物 4,500部〔4,500部〕 およびHTML版(H25)		